

ふるさと探訪 ⑦6

世界遺産・国宝 富岡製糸場と 取手(その2)

〈問い合わせ先〉埋蔵文化財センター
☎73-2010

取手と世界遺産・国宝富岡製糸場を結びつけるものが、前回紹介した第三代と五代目の富岡製糸場所長を務めた速水堅曹はやみけんせうのモニュメントの他に、もう一つあります。

それは、片倉工業株式会社です。かつて取手駅東口の前に片倉工業の取手製作所がありました。ここでは、「回転まぶし」と呼ばれる、蚕かいこが繭まゆを作りすぎになるときの場所を区分した、段ボール製の道具を製作していました(写真1)。

写真2は、発行年は不明ですが、片倉工業取手製作所のパン



写真1…取手製作所での回転まぶし製作光景(取手教育委員会蔵)

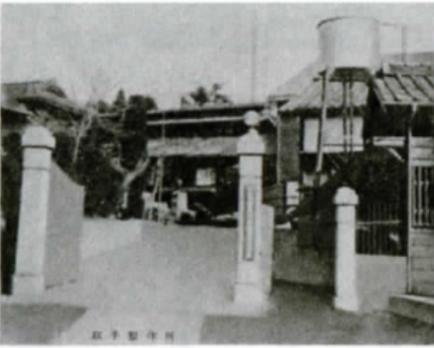


写真2…片倉工業取手製作所(個人蔵)

フレット(個人蔵)の裏表紙に使用されている取手製作所の写真です。住所が取手町となっているので、昭和45(1970)年の市制施行以前であることは分かります。紙面ではモノクロですが、貴重なカラー写真です。

片倉工業に問い合わせたところ、昭和28年10月に取手出張所が取手製作所となったようですが、取手出張所の開設年代は、会社にも記録がなく、分からないそうです。

昭和46年10月には、取手製作所は現在の埼玉県加須市かそに移転し、跡地には昭和48年3月、カタクラショップ・ピングプラザが開業しました。現在では、ショッピングプラザもその姿はなく、マンションが建っています。

さて、世界遺産・国宝富岡製糸場と片倉工業には、どのような関係があるのでしょうか。

昭和14年9月、片倉工業の前身である片倉製糸紡績株式会社は、旧官営富岡製糸場(当時は株式会社富岡製糸所)を合併し、昭和62年3月まで富岡工場として稼働していました。富岡工場の操業停止後も、約18年間の長きにわたって片倉工業は施設の維持・保全に努め、平成17年には建物を富岡市に寄贈しました。

富岡製糸場は、同年には国の史跡に指定され、平成26年にはユネスコの世界遺産に登録。さらには国宝に指定されました。日本の近代化を支えた富岡製糸場は、片倉工業の手によって守られたのです。

■おわびと訂正 ふるさと探訪⑦6で誤りがありました。おわびして次のおり訂正します。(誤)大正2(1896)年
↓(正)大正2(1913)年